

さくら組 すくわくだより

令和7年度 鎌倉保育園

昨年度から、乳幼児の豊かな心と育ちをサポートするため、主体的・共同的な探究活動を通じて保育の充実を図ることを目的とした事業である「とうきょうすくわくプログラム」を実践しています。今年度は、親子散歩でのプラネタリウム体験をきっかけに宇宙へ興味を持ち、「もう一度行きたい」「園でも作ってみたい」といった声が聞こえるようになったので、クラステーマを「宇宙」として1年取り組んできました。図鑑を見ながら「この星座見たね」と体験と知識を結びつける姿も見られ、関心が深まっていきました。

その興味をもとに、スパッタリングやデカルコマニーなど様々な技法を用いて星空や惑星を表現する製作へと展開しました。活動の中では、絵の具の使い方や色の違いによって表現が変わる事に気づき、一人ひとりがイメージを広げながら製作を楽しむ姿が見られました。



室内あそびでは、マグビルドを用いてプラネタリウムを再現するなど、体験をあそびの中で再構成する姿も見られました。「マグビルド以外で、何か使ってプラネタリウム作れないかな?」という問いかけにいろいろな意見は出ましたが、具体的な製作には至らず、興味は遊びの中で断続的に続いていきました。

その後も、運動会の看板製作や、クリスマスプレゼントでもらったプラネタリウムを室内で楽しんだりと興味が持続していました。卒園記念の共同製作では子どもたちから「宇宙」がテーマとして上がりました。これまでの経験を活かしながら、年長児として低年齢児に、技法を伝えたり、友達と話し合いながら宇宙の表現を考えたりする姿が見られ、探究が継続的に積み重なっていきました。



その後、遊びの中で「どうすればプラネタリウム作れるかな？」と数名のお友だちと考え、ダンボールや紙を使った試作が始まりました。筒状の箱に紙を貼り、穴を開けて覗く中で「星みたい」と気づき、さらに「色のついた星を表現したい」という思いから、穴をふさいだテープに色を塗るなど、試行錯誤しながら表現を工夫する姿が見られました。

この経験をもとにクラス全体で話し合い、卒園記念製作として大きなプラネタリウム作りへと発展しました。これまでの経験を活かしながら、子ども同士で役割を担い、小さな製作を経験したお友だちが中心となり進めていきました。星座への興味から絵本を参考にシールで星座を表現し穴を開けたり、それぞれの発想を生かしながら協働的に取り組むことが出来ました。完成後は段ボールの中に入り、天井を見上げながら「星が見えた」「星座があった」と喜び合う姿が見られました。



今回の活動を通して、子どもたちは興味を持ったことを自分たちで考え、試し、友達と協力しながら形にしていく経験を積むことができました。ぜひ、ご家庭でも空を見上げながらお子さんと星のお話を楽しんでみてください。